

7月

「熊本県犯罪の起きにくい安全安心まちづくり条例」の施行
 犯罪の増加や地域の防犯力が低下している中、安全で安心なまちづくりを目指し、条例を制定しました。一人一人の、そして地域での防犯意識を高める取り組みを進めています。

川辺川ダムをめぐる取り組み
 川辺川土地改良事業の水利水計画の策定に向けて、国、県、地元市町村が一体となり、関係農家との集落座談会（六十五地区 六～七月）やアンケート調査（約四千二百人対象 六～八月）を実施。一方、九月には、国土交通省から熊本県取用委員会に提出されていた川辺川ダム建設に伴う漁業権や土地の取用裁決申請はすべて取り下げられました。

アスベスト問題への取り組み
 全国的な問題となったアスベスト（石綿）問題に関して、健康相談、建築資材、廃アスベスト、環境対策など内容に応じて相談窓口を設置。十月には、皆さんからの情報を一元的に受け付け、今後のアスベスト対策につなげるため「アスベスト総合相談窓口」を設置しました。

さらなる高まる熊本の食の安全安心
 四月に「熊本県食の安全安心推進条例」を施行。十月からは、無登録農薬などを使用した農林水産物の出荷や販売を禁止し、条例違反の疑いがある場合には、立ち入り検査や出荷停止などの勧告、公表が行えるようになり、食の安全安心を高める取り組みが一層進みました。

NPQ（民間非営利団体）と連携した若者の自立支援始まる
 若者の自立を総合的に支援するため、若者しごとカウンセラーの配置（四月）や相談専用電話・若者チャレンジホットラインの開設（四月）。七月からは、NPQと連携し、教育も職業訓練も受けず、就職活動もしていない無業の若者に対し、講演会や職業訓練を行うなどの支援事業に取り組んでいます。

「こども総合療育センター」のグランドオープンはじめ 保健福祉の拠点整備進む
 県内の障害児療育の拠点として、心身障害児総合通園センターの開設など、こども総合療育センターの再編整備が完了。また、難病患者やその家族を支援する「熊本県難病相談・支援センター」を開設（六月）したほか、地域と一体となって総合的に地域福祉を進める「健軍くらしささえ愛工房」を県営住宅健軍団地に整備（十月）しました。

三つのフォレスト構想の推進
 医療・食品・環境関連産業にかかるとものづくりの基礎技術の高度化にかかるとものづくりのフォレスト構想の策定（六月）、IT（情報技術）産業にかかると熊本セミコンダクタ・フォレスト構想の見直し（七月）を行い、八月には、産・学・行政の交流を進めるため「くまもと産業戦略フォーラム」を開催するなど、「あらゆる産業の元気づくり」の実現に向け取り組んでいます。

「第十四回全国ボランティアフェスティバル」開催で熊本をアピール
 「第十四回全国ボランティアフェスティバル」の国くまもと」として「第二十二回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」（十一月）を開催し、訪れた多くの方々に、熊本に息づくボランティアの心、受け継がれてきた匠の技を感じていただきました。

8月

医療・食品・環境関連産業にかかるとものづくりのフォレスト構想の策定（六月）、IT（情報技術）産業にかかると熊本セミコンダクタ・フォレスト構想の見直し（七月）を行い、八月には、産・学・行政の交流を進めるため「くまもと産業戦略フォーラム」を開催するなど、「あらゆる産業の元気づくり」の実現に向け取り組んでいます。



9月

川辺川ダムをめぐる取り組み
 川辺川土地改良事業の水利水計画の策定に向けて、国、県、地元市町村が一体となり、関係農家との集落座談会（六十五地区 六～七月）やアンケート調査（約四千二百人対象 六～八月）を実施。一方、九月には、国土交通省から熊本県取用委員会に提出されていた川辺川ダム建設に伴う漁業権や土地の取用裁決申請はすべて取り下げられました。

10月

さらなる高まる熊本の食の安全安心
 四月に「熊本県食の安全安心推進条例」を施行。十月からは、無登録農薬などを使用した農林水産物の出荷や販売を禁止し、条例違反の疑いがある場合には、立ち入り検査や出荷停止などの勧告、公表が行えるようになり、食の安全安心を高める取り組みが一層進みました。

ユニバーサルデザイン（UD）の推進に向けた取り組み
 県政運営の基本理念であるユニバーサルデザイン。「熊本県の道路に関するUD指針」の策定（八月）やUDの推進状況を明確にするUD指標の設定（十月）、子どもたちのUDへの理解を深める「UD体験ツアー」（十一月、十二月）などに取り組んでいます。また、来年二月にUDについての講演会や関連製品の展示などを行なうくまもとUDフォーラム2006」に向けた準備を進めています。

十一月一日は「くまもと教育の日」
 県民の皆さんに教育の重要性について理解を深めていただくとともに、教育関係者が責務の重大さを自覚するきっかけとして、今年から制定しました。また、子どもたちが授業や給食の時間に食の大切さについて学ぶなど、学校教育活動全体を通して「食育」を進めました。

「第十四回全国ボランティアフェスティバル」開催で熊本をアピール
 「第十四回全国ボランティアフェスティバル」の国くまもと」として「第二十二回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」（十一月）を開催し、訪れた多くの方々に、熊本に息づくボランティアの心、受け継がれてきた匠の技を感じていただきました。

今後とも、ユニバーサルデザインとパートナーシップを基本に、誰もが「住みたい、住み続けたい」と思えるような元気で明るい熊本づくりに取り組んで参ります。

さらに、五年半後に迫った九州新幹線的全線開業効果を最大限発揮できるよう、県内十一地域のプロジェクト推進本部において戦略策定に力を入れるなど、熊本県の未来を見据えたさまざまな取り組みを進めています。

雇用回復の動きの一方、まだまだ地域経済の明るさが見えにくいといわれる中、本県では、三つのフォレスト構想を策定し、より一層産業振興を図っていくこととしました。秋には、「ボランティア」や「伝統的工芸品」の二つの全国大会を開催し、本県の魅力と元気を全国に向け発信することができたと思います。

街ではコートンの襟を立てる姿も目立つようになり、やっと冬の到来を感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今年には漁業権等の取用裁決申請が取り下げられた川辺川ダム事業、保健手帳の申請受け付けを開始した水俣病対策にみられるように、喫緊の課題に大きな動きがありました。また、「こども総合療育センター」の再編整備や「健軍くらしささえ愛工房」のサービス開始など、保健福祉の拠点整備を進めた年でもありました。



知事室から